

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえ、事業所、個人の目標を立てている。朝礼時に法人理念・事業所の目標を唱和し実践につなげている。	法人理念「共に歩む」のもと本年度の事業所目標「一人ひとりに寄り添い、一人ひとりの笑顔と、喜びを大切に」を掲げており、毎朝職員全員で唱和している。理念と目標は玄関に掲げられており来訪者にも分かりやすくなっている。理念にそぐわない言動が見られた時は管理者と面談で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや学校、保育園の行事に参加している。また近所の方が野菜、果物、花を届けてくれたりと交流が拡がりつつある。	小学校の音楽会、保育園の運動会に招待され利用者数名が参加している。近所の方から野菜や果物も届けられている。運営推進会議委員の区長や民生委員の方を通して更に交流を広げていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場の協力を得て、キャラバンメイトの職員が、運営推進会議で会議メンバーである区長、民生委員、長生クラブの方々に認知症サポーター研修を開催。一家に一人は認知症サポーターのいる地域を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの要望またグループホームからのお願いを伝えている。また地域に開かれたグループホーム作りのアドバイスを町から受けている。	偶数月の第2水曜日15時30分から定期的開催している。区長・民生委員・長生クラブ・家族代表・入居者代表・役場福祉課職員で構成している。運営状況の報告、地域の課題や行事の情報をいただくなど活発に意見交換している。要望等は運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入・退居の状態や待機者、入居希望等、連絡を取り合うよう心掛けている。	運営推進会議の委員でもある町役場福祉担当者と連絡をとりあい密に関わっている。町のグループホーム連絡会があり、他ホームの情報も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は将来的にやめていく方向にあるが、現時点では外側からだけ、自由に入られるような施錠方法で対応している。	拘束を必要とする方はいない。外出傾向の強い方もおられるので、チェックリストに基づいて1時間ごとに所在確認を行い安全に努めている。また気分転換と一緒に散歩をしている。法人主催の学習会が年1~2回あり職員は参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開き、職員間で共有している。また入浴時は全身の観察を行い、注意を払っている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を収集し、成年後見人制度を理解するよう、話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い、疑問がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族会運営推進会議の機会をとらえて意見を出して頂いている。面会時等、御家族様と話しをする時間をできるだけ作る努力をしている。	自分の思いや意見を言葉で表出できない方も四分の一ほどおられる。そういう方には表情や動作、以前の性格などから推測して汲み取っている。ご家族にはご意見箱の設置や面会時に要望等伺うようにしている。各々の要望や意見は職員会議で検討し活用している。また日々のホーム内の様子を写真にして毎月家族へお伝えし意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、毎日の申し送り時、ミーティングに於いて意見交換し、改善に反映している。	毎月第2水曜日9時から職員会を開催し、全員参加を原則としている。テーマは事前に提示されており活発に意見交換がされている。欠席の場合には職員会議用ノートが更衣室に設置されていて各自目を通して内容を理解している。管理者による面談が年2回実施され提案や要望も多数出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聞き、積極的に取り入れている。自発的に取り組む姿勢を大切にして意欲向上に努めている。職員の雇用形態の見直しを行い、処遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員全員が参加できるように取り組んでいる。中途採用者が多い中、法人理念や基本的事項を学ぶ研修には全員が参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加。講習会への参加を励行している。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様からの希望、御家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。入所の段階で、御本人様・御家族様が望む十分な面談時間を取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の意向を重視してケアプランを作成し、統一した介護を行っている。必要に応じて他のサービスの紹介、利用もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の過ごしてきた人生の歴史を理解し、暮らしを共にする者として、介護する・される関係を越えたひとつの家族になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様だから出来る事、施設だから出来る事を共有し、共に御本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はもちろんハガキや手紙のやり取りを支援している。昔の同僚、地域の役員をした時の友人、以前入所していた施設職員等の面会も増えている。	昔の同僚、婦人会役員と一緒にされた方、近所の方等の面会がある。親族に電話をしたり、友人に手紙を書いたりする方の支援も行っている。地域の方がリンゴや野菜を届けながら面会されることもあり、墓参りに行かれた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の人間関係の把握に努め、孤立している方がないように働きかけている。職員は中間的な立場に立ち、話の橋渡し役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望される御利用者様や御家族様には相談や支援をおこなうように努めている。 入院された方には状況を判断し、お見舞い訪問を行っている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向をしっかりと受け止める様にカンファレンスを行っている。また日々の変化を見逃さないように気づきを共有している。介護が必要になる前の情報収集を行い、意思が伝えられなくなっても思いを汲み取れるように努めている。	自分の思いや意見を言葉で表出できない方も四分の一ほどいる。そういう方には表情や動作、以前の性格などから推測して汲み取っている。開所以来関わっている職員が多いのでさりげない動作やつぶやきでも感じ取れることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様、御家族様から直接情報を得て、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの他に、必要に応じてカンファレンスを開き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様からの意向、意見をお聞きしている。また医師から意見を得たりもする。それらを基にカンファレンスで意見を出し合い御本人に適した計画を立てている。	入居者や家族の意向を踏まえて立案し、作成後家族に説明し了承を得ている。毎月経過を確認し、3ヶ月毎に評価・見直しを行っている。状態の変化が見られた時には医療面に関して医師や看護師の意見をj得て計画変更し、最適なプランを立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノートに個別で記録し、全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応し、できる限りの柔軟なサービスを行っている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、町の相談員の訪問を受け、情報交換や協力を行っている。近隣住民やボランティア様の訪問も増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回往診日を設けている。また必要な場合はすぐ往診に来てくれる体制となっている。電話での相談にものってもらっている。	協力医療機関が近くにあり毎月定期的に往診がある。また夜間急変時にも快く対応してくれている。以前からのかかりつけ医の受診は原則として家族が対応している。かかりつけ医の往診を受けている方も1人おられる。隣接の老健から同一の看護師が週1回来訪し、健康管理や相談に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に気づいた点を相談し、アドバイスを受けながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関とは情報交換を行っている。退院前のカンファレンスにも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様の意向を尊重し、医師や看護師との相談を重ね方針を決めている。またここでの生活を1日でも長く過ごして頂けるように対応している。	「重度化した場合の看取り指針」に基づいて本人や家族の意向を尊重し個々の方針を決めている。開設以来数人の方を看取られている。医師・看護師の協力を得て、住み慣れた所に最後まで住み続けてもらおうという職員の心構えがあり穏やかな自然のいとなみを支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師からその都度必要な応急手当を指導してもらっている。また、職員個々に緊急時の対応講習に参加して、知識・技術を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災委員会を中心に定期的を実施している。年2回防災訓練。他地震対応訓練、災害用伝言ダイヤル体験訓練、停電時の対応等、様々な災害について勉強の場を設けている。	年2回、6月と11月に地域消防署の指導のもと火災時の避難誘導訓練を実施している。日中であつたが夜間を想定した訓練も実施した。他に地震時避難訓練や伝言ダイヤル体験訓練等も実施している。防災委員を中心に計画し職員の防災意識も高い。食料品や介護用品は常時3日分備蓄されている。	

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応を行っている。 また接遇委員による自己チェックを行い、日々自分自身の対応を見直し、改善するように努力している。	利用者が好まれる呼び方を用いて尊厳をもって対応している。接遇委員会作成の「接遇チェック表」を用いて年2回自己チェックをしている。その結果から気になる職員に関しては管理者が個別に面談をして気づきを促している。個人情報保護に関するマニュアルも整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様が希望等を訴えやすいようなかかわりを持つように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでの生活を優先するように心掛けている。できる限り個別支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しめるよう支援している。身だしなみ等にもさりげない声かけにて対応している。定期的に美容師によるカットの日を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから後片付けまで、一人ひとりの得意な事、出来る事をして頂けるように心掛けている。食事作りを日課にしている御利用者様もいる。	献立は利用者の希望を取り入れてホーム独自に作っている。利用者の中には野菜を切ったり後片付けを手伝う方もいる。半数以上の方は自力摂取できるが全介助の方も四分の一ほどおられる。ミキサー食も一品ずつ彩りよく盛りつけられていた。職員はさりげなく声をかけ、目配りも十分につつ介助されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせている。医師や看護師からもアドバイスをもらいながら、それぞれに応じた対応となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎日の生活の中で一連の流れとして、楽しみながら行っている。一人ひとりに適した用具、回数を心掛けている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。また「訴え」の行動を見逃さないようにして、御本人様の意思を尊重した支援ができるよう努めている。	全員の方が声かけ以上のなんらかの介助が必要である。排泄リズムの把握や動作のサインを察知する等で声かけや誘導をさりげなく行っている。失敗した場合も自尊心を傷つけないように配慮し、自室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動にて予防に取り組んでいる。薬に頼らなくても良いように、職員も日々勉強している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日を入浴日として、原則この間に2回入浴していただくよう支援している。入浴方法も個人個人により工夫して満足につながるよう努力している。	入浴日は週6日あり、その間に最低2回入浴していただいている。全介助の方が四分の一ほどおり、他の方も見守りや一部介助が必要である。入浴を拒否する方には時間帯を変えたり翌日に勧めたりと無理強いせず本人の気持ちを大切に声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠できるように環境を整えたり、安心できるような対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については常に確認し理解している。薬の変更があった場合はスタッフ全員に速やかに周知徹底している。また日常の変化を医師に伝え服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御自由に過ごして頂けるように見守りながら、趣味をお持ちの方には役割を持って頂いている。また得意なことを継続していただけるような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出行事等、出来る限り希望に沿うようにしている。また御家族様の協力を得ながら、一時帰宅等楽しまれている。春には初めてお墓参りをした。	四季折々の外出は年間行事として計画している。日常の散歩はホームの周囲を歩いたり、中庭で四葉のクローバーを探したりしている。外出時は杖歩行も困難で車椅子の方が多くなり遠出が困難になっている。冬場は隣接している老健に遊びに行ったり、窓から景色を眺めながらひなたぼっこをする等、気分転換をしている。	

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様の状態により施設側での管理となっているが、希望時には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、御利用者様の要望に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには観葉植物やお花等を置き、壁には季節の暖簾をかけるなど、落ち着いた過ごして頂けるように工夫している。	居間と食堂は間仕切りで仕切れそれぞれ広いスペースを取ってある。天井が高く明るく開放的で窓から周囲の景色を楽しめるようになっている。観葉植物や花が自然に置かれていて、床もきれいに掃除されている。廊下には外出時や行事の写真が飾られていて和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所にはソファやテーブルがあり、一人でも多数でも利用できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の気持ちを大切に、好みを考慮した居室になっている。それぞれの特徴が活かされた居室となっている。	居室はゆったりとして日当たりが良く明るい。本人の好みの物や馴染みの物で飾られている。掃除が行き届き清潔である。各居室には花の名前が付いていて、その花の写真が表札代わりに掲げられ、自然の中にいるような雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして頂けるように配慮している。状況に応じて促しもしている。		